

菅野典雄 前村長 福島県知事表彰

菅野さんは、受賞者を代表して謝辞を述べ、「私達はそれぞれの立場で職務に当たってきたに過ぎませんが、はからずもこの荣誉に浴することができたのは、それぞれが自助努力を怠らなかつたこと、利他の心を忘れなかつたこと、そして多くの方々のご協力があつたからこそではないでしょうか」と振り返り、「精進を重ね、地域社会のために力を尽くしたい」と決意を語りました。

村づくりそして震災対応6期24年の功労を讃えて

平成8年から6期24年にわたり飯館村長を務めた菅野典雄さん（佐須）が、地方自治功労者として県知事表彰を受けました。

令和6年度各種功労者知事表彰式は、5月21日に杉妻会館（福島市）で挙行されました。式では、内堀雅雄福島県知事が、出席者の一人ひとりに表彰状を授与し、「全ての県民の鑑となる輝かしい功績」と讃えました。



齋藤元彦 兵庫県知事が来村 復興サミットでの情報発信に協力要請

5月10日、齋藤元彦兵庫県知事が、来村しました。

齋藤知事は、阪神・淡路大震災から30年の節目と大阪・関西万博に合わせて令和6年に開催する「創造的復興サミット」への参加を福島県と飯館村に要請するため来福していました。杉岡村長はこの要請を快諾し、加えて、これまでのつながりを生かして「防災・減災に向けた取り組み」「ゼロカーボン実現に向けた取り組み」「教育スポーツ交流」「観光・産品紹介」などにおいても連携していきたいと伝えました。また齋藤知事からは「兵庫県は但馬牛の産地であり、畜産をテーマにした交流もできるのでは」と提案がありました。

齋藤知事は総務省職員時代、震災直後の平成23年4月から約3か月間、飯館村の政府現地対策室に派遣され、計画的避難に関するさまざまな対応にあたりました。庁舎を視察し職員らと当時のできごとを振り返り、また長泥地区を視察するなどして、飯館村の復興の歩みを噛み締めていました。



復興庁の大臣・副大臣が相次いで来村

土屋品子復興大臣 長泥地区を視察

特定復興再生拠点区域と長泥曲田公園の避難指示が解除されてちょうど1年となった5月1日、土屋品子復興大臣が長泥地区を視察しました。

杉岡村長らが、長泥コミュニティーセンターで土屋大臣を出迎えました。また、課題解決への協力を求める要望書を手渡し、地域の特色や震災後の状況、住民の皆さんの取り組みなどについて説明しました。

その後、土屋大臣は、環境省から環境再生事業に関する説明を受け、水田試験エリア、花卉栽培の実証を行うビニールハウスなどを視察。ハウス内では、高橋正弘区長をはじめとする住民から花束を受け取り、交流しました。

視察を終えた土屋大臣は「できるだけ早く長泥に来たいと思っていた。地域を再生し未来につなぐたいという住民の意欲を強く感じた。その思いに併走し支援したい」と話しました。



平木復興副大臣は「肉のゆーとぴあ」を視察

平木大作復興副大臣は、5月20日に来村し、山田豊さん（関根・松塚）が営む牛舎と、精肉店「肉のゆーとぴあ」を視察しました。

山田さんは、「肉のゆーとぴあ」の店名の由来について、関根・松塚地区の機関誌名「ゆーとぴあ17」（「17」は第17行政区であることから）にちなんでいることを紹介し、「自分一人の想いではなく、地区の人の想いも背負って取り組んでいる」と話しました。また、山田さんは、震災後の経緯を説明し、避難をしながら精肉店で学んだこと、当時は村に戻れないと思っていたが、「牛に関わる仕事をするはその土地の人間になることだ」と考え飯館に帰って来たことなどを語りました。そして、「牛について学び直す期間があり、後に福島再生加速化交付金を活用して事業を立ち上げることができて、今の自分がある。村全体の飼養頭数も増えてきていて、農家一人ひとりに想いや味の違いがある。自分一人が突出してやるのではなく、それぞれの想いを大切に、力を合わせていきたい」と伝えました。

